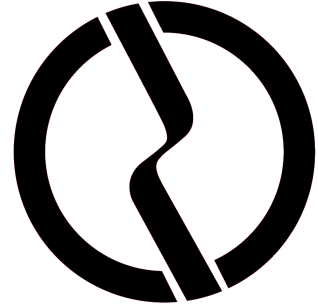


府中市の市章、木、花、鳥など

市章（昭和29年8月7日制定）

府中の「ふ」と「中」を組み合わせ、市民相互のまどかな結びつきを表現しています。

中央には、多摩川の清流をかたどり、市の将来の永遠なる発展を象徴しているものです。



市の木、花、鳥（昭和44年10月5日制定）

市の木、花、鳥は、自然を愛し、自然に親しむ心の象徴として、市制施行15周年を記念し、市民公募の中から決定したものです。



●市の木 けやき

すくすくと天高く伸びる“けやき”は、市勢の発展を示唆するかのようであり、子どもたちの健やかな成長を願う市民の心を象徴しています。



●市の花 うめ

百花に先がけて咲く“うめ”は、豊かな市民生活を希求する府中市の姿勢とともに、自然をいつくしむ市民の心を象徴しています。



●市の鳥 ひばり

澄みきった青空に、真一文字に舞い上がる“ひばり”は、だれもが「住みたくなる都市」をめざして進展を続ける府中市を象徴しています。

市民憲章（昭和44年10月5日制定）

長い歴史と伝統につちかわれてきた府中市。多摩の流れとともに歩みつづけてきた府中市。わたくしたちは、ここに住むことを誇りとし、より平和に、より豊かに発展することを願い、心をこめて市民憲章を定めます。

わたくしたち府中市民は

- 1 郷土を愛し 自然にしたしみ 美しいまちをつくりましょう
- 1 互いに尊敬し合い 力を合わせて 明るいまちをつくりましょう
- 1 教養を身につけ 知識を広め 文化の高いまちをつくりましょう
- 1 働くことを喜び 健康を保ち 豊かなまちをつくりましょう
- 1 きまりを守り よい風習を育て 住みよいまちをつくりましょう

府中市の歌（昭和44年10月5日制定）

村野 四郎 作詞
平井 康三郎 作曲

大いなる文化の華（はな）は
いや古き地にこそひらけ
ああ みどりなす武蔵野の
多摩のながれに澄む光（かげ）や
けやきの梢ゆく雲に
いまぞ明けゆく世紀のすがた
おお さわやかに ゆたかに進む
建設のひびき
うつくしき夢は はばたく
ああ 府中
新しきわれらのふるさと



姉妹都市・長野県南佐久郡佐久穂町

昭和54年10月、市制25周年記念事業の一つとして、長野県南佐久郡八千穂村との間に、姉妹都市の盟約を結びました。八千穂村は平成17年3月に隣町の佐久町と町村合併して佐久穂町に生まれ変わりましたが、同年10月には継続して姉妹都市盟約が結ばれました。



友好都市・ウィーン市ヘルナルス区

「音楽の都」とうたわれ、今も国際的な観光都市として親しまれているオーストリア共和国の首都ウィーン市。府中市は、平成4年8月にウィーン市ヘルナルス区と友好都市の提携をし、以来、交流を深めています。



市民協働都市宣言（平成26年10月19日）

歴史と文化、豊かな自然にはぐくまれ、都市としての魅力や活力にあふれる、わたしたちのまち府中。

わたしたちは、将来にわたってみんなが笑顔で暮らし、働き、学び、活動できるように、お互いの信頼関係のもとに協力し合い、支え合うまちをつくります。

そのために、わたしたちは、まちの主役として自らの役割を考え、できることから積極的にまちづくりに参加します。

そして、わたしたちは、ともに考え、汗を流し、一体となって地域課題の解決に取り組みます。

わたしたちは、洗練された輝き続けるまちへのさらなる飛躍を誓い、ここに府中市を「市民協働都市」とすることを宣言します。

